

## 特集

# 現代韓国朝鮮研究とアーカイブズ

本特集の目的は、現代韓国朝鮮研究に有用な史料や行政文書の在処やそれらの価値や意義などについて概説することにより、会員や後学の研究の発展に資することにある。

現代韓国朝鮮学会がその名に冠する「現代」は、一般に日本の敗戦・朝鮮の解放以降現在に至る期間を指すと考えられている。従来、「現代」の研究は、新聞・雑誌、公刊された統計や研究者自らが実施する社会調査の結果などに拠って行われてきた。

しかし、すでに1945年8月から60有余年が過ぎ、例えば外交研究では、国による公開の度合いに違いはあるものの、「現代」の約半分は、公開された外交文書を使うことが可能になってきた。欧州における冷戦の終焉や社会主義圏の崩壊の結果、これら諸国の公文書が北朝鮮研究などで活用されるようになった。

政治・外交以外の分野でも、韓国では政府が1996年に情報公開法を施行して行政文書の公開に関わるインフラを整備するとともに、インターネットを通じた情報提供を積極的に行うようになったことにより、研究のための資料環境は大きく改善された。その一方で、現代北朝鮮については、同国発行の書籍や定期刊行物の類ですら散在しており、そのことが後学の参入を大いに困難にしている。各アーカイブズ・資料分野に精通した専門家の方々の執筆による本特集を通じて、広く学会で情報を共有する意義は大きいと考える。

なお、特集記事に関して、小針進「韓国現代政治史・社会史に関する口述記録」、井岡博「ドイツのアーカイブズ」については、投稿されたものを所定の審査手続きを経て掲載を決定した。田鉉秀「解放直後の北韓研究とロシア資料」は、2005年11月に慶應義塾大学三田キャンパスで開催された現代韓国朝鮮学会第6回研究大会の共通論題「北朝鮮研究とソ連・東欧資料」で発表された論文（原文は韓国語）を翻訳したものである。それ以外は、当該分野に関して最も適切であると考えられる会員および非会員に対して執筆を依頼したものである。

この特集記事を契機にして、日本における現代韓国朝鮮研究の実証レベルがよりいっそう高まることを期待したい。

現代韓国朝鮮学会『現代韓国朝鮮研究』編集委員会